

THE QRP NEWS

The Official Journal of the JARL QRP CLUB vol.69

発行人

JE1UCI 富川 寿夫

編集人

JN3DMJ 松本 貢一



小さなパワーで大きな感動

QRP: Small Power, Big Dreams!

JARL QRP CLUB 会報 2026 年 8 月 19 日発行 vol.69-02-Public

公開版（会員限定会報の一部を公開しています）

CONTENTS

【製作】430MHz FM トランシーバーの製作	JG3ADQ	永井 正範	1
※	※	※	※
【運用】進め電波老人 南国土佐はオタクの聖地の巻	JR3ELR/1	吉本 信之	7
【実験】433MHz SAW(弾性表面波)フィルタ活用 CW 送信機 FM ワイヤレスマイク	7L1HBS	成島 礼司	9
【運用】今年も参加！KANHAM コンテスト	JE3IFZ	上田 昌一	12
【レポート】第 30 回関西アマチュア無線フェスティバル (KANHAM2026)	JN3DMJ	松本 貢一	15
【レポート】ネット QRP 懇親会報告	JN3DMJ	松本 貢一	21
【新入会員紹介】		(編集部)	※
【会員の近況報告】		(編集部)	※
【お知らせ】2026 年度役員会（夏）議事録		役員・監査役	※
【お知らせ】11 月 3 日に JARL QRP CLUB 2026 年 QRP コンテストを開催します	JG3DHN	上田 雅貴	23
【お知らせ】アワード発行のお知らせ	JA9RRH	中社 進	
【お知らせ】JARL QRP CLUB からのお知らせ	JH3VAA	野村 衛	23
【編集後記】	JN3DMJ	松本 貢一	24
	JN3DMJ	松本 貢一	25

※：会員限定

【製作】430MHz FM トランシーバーの製作

#58 JG3ADQ 永井 正範

2025 年に 144MHz の FM トランシーバーを作ったものの出ている局が少なく、休日に交信チャンスがある程度です。それに比べると 430MHz FM は比較的多くの局が出ており、休日には SOTA(山岳移動)や POTA(公園移動)で運用を楽しんでいる声も聞かれます。これまではメーカー機で運用していましたが、144 の FM 機を作った経験を活かし、このバンドでも自作の電波を出してみたくなりました。また、リグ作りを思いつく 1 つのきっかけとして、目的の周波数を作るために市販されている水晶の組み合わせが閃いた時にあります。手持の水晶を眺め、頭の中で足したり引いたりしながら下の組合せを思いつきました。構成は FM ジェネレータ部とトランスバータ部の 2 つに分けます。

1. $VXO=50.5\text{MHz}$
2. 中間周波数 $=10.7\text{MHz}$
3. トランスバータ局発 $=372\text{MHz}(41.333\text{MHz}\times 9 \text{ 通倍})$
 $50.5+10.7+372=433.2\text{MHz}$

回路としては昨年発表の 144MHz FM トランシーバーと基本的に同じで、内蔵の周波数カウンタ以外はアナログ回路で構成し、使用 IC はオーディオの LM386 と電圧安定化のための 78L09 だけで他はディスクリートで組みました。またケースはアルミ板を加工して作り、455kHz ディスクリコイルは手巻きしました。動作としては FM ジェネレータ部で 61MHz 出力 1mW の信号を作り、その出力をトランスバータで 433MHz に持ち上げ 1W まで増幅します。また周波数は内蔵したオフセット可能のカウンタで読み、ダイヤルで合わせる方式であり、ロータリースイッチによる切替ではありません。3 エリアにおいては大半の局が $433.000\text{MHz}\pm 200\text{kHz}$ に出ていますが、VXO の安定性を考慮し上側の 200kHz に絞りました。なおスプリアスは規格の $50\mu\text{W}$ (出力 1W 以下) に対し $19\mu\text{W}$ であり、規格内に納まりました。

運用実績としては、当局アンテナ 7mH の $5/8\lambda$ GP にて、山岳移動局であれば 60km 程は 59 で交信できています。一方固定局(出力 20~50W)に対し当局の S は 2~3 低くなり、交信範囲としては立地や建物の影響そして相手局のアンテナにもよりますが 20~30km 程でしょうか。

さて、430MHz FM の運用状況については、休日の移動運用は多いですが、平日でも毎朝や毎昼に定期的に CQ を出す局がいたり、夕方には高校の無線クラブからの CQ が聞こえることもあります。さすがにピーク時に比べれば減ったとは言え、ハンディ機で手軽に運用出来るなど、入門バンドとしての位置づけは今も続いているようで、小学 2 年生の局と交信したこともありました。一方、総務省による 430MHz 再編成検討(二次業務化)という嬉しい情報もありますが、お空に出ることで微力ながらアマチュア無線の存在感を示していこうと思います。

特徴

1. 周波数表示はオフセット機能付きの周波数カウンタを使い、それ以外はアナログ満載のディスクリートで組んだ回路構成。
2. 同調は可変(TUN1)と 433MHz 固定(TUN2)をスイッチで選択。
3. ケースは 2mm と 1mm 厚のアルミ板で自作。

仕様

1. 周波数：433.000~433.200MHz
2. 電波型式：FM
3. 送信出力：1W
4. 終段：2SC3006
5. 中間周波数：第 1=61MHz、第 2=10.7MHz、第 3=455kHz
6. 帯域幅： $\pm 5\text{kHz}$
7. 周波数表示：周波数カウンタ PLJ-0802A を使用（オフセット機能あり）
8. 電源電圧：12V
9. サイズ：幅 200×高さ 70×奥行 150mm（突起部を含まず）



写真1 完成した 430MHzFM トランシーバー

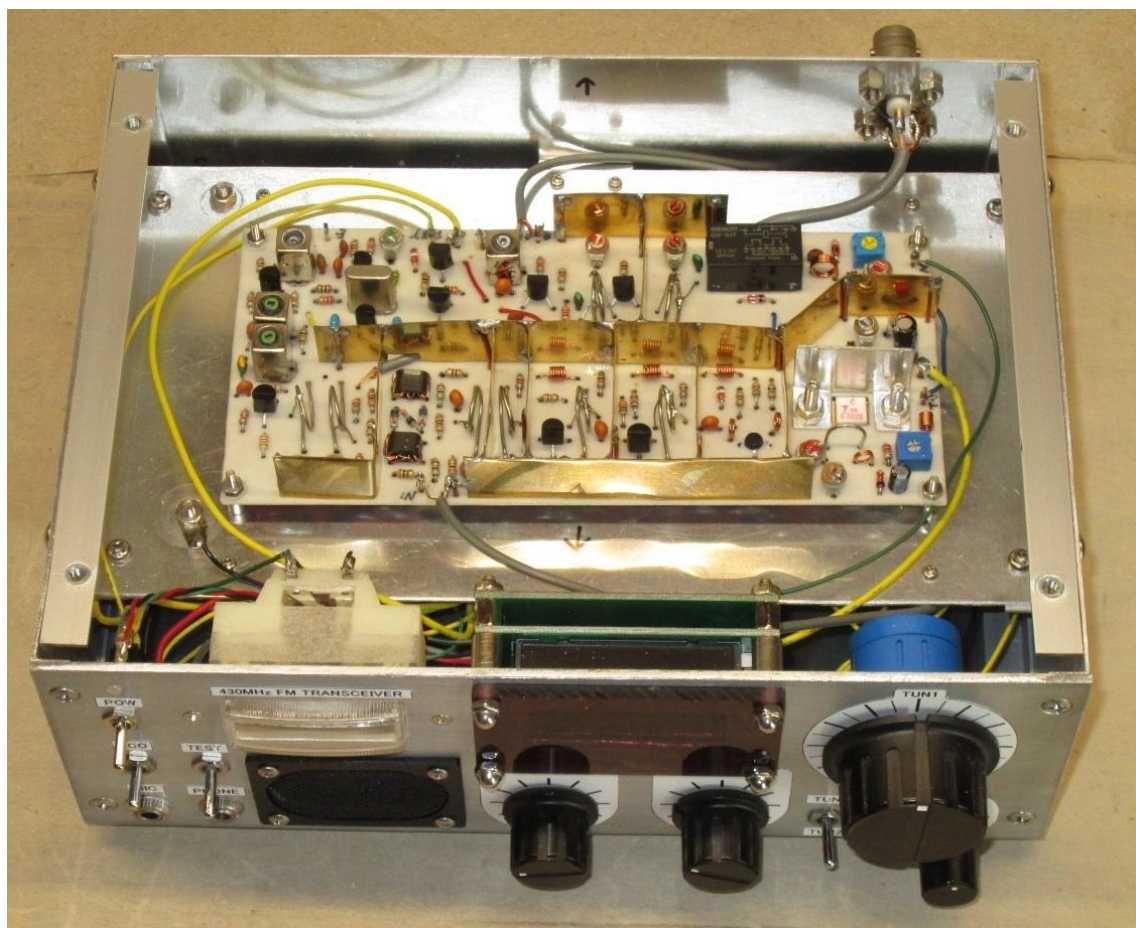


写真2 上面：トランスバータ部（基板サイズ：150×70mm）

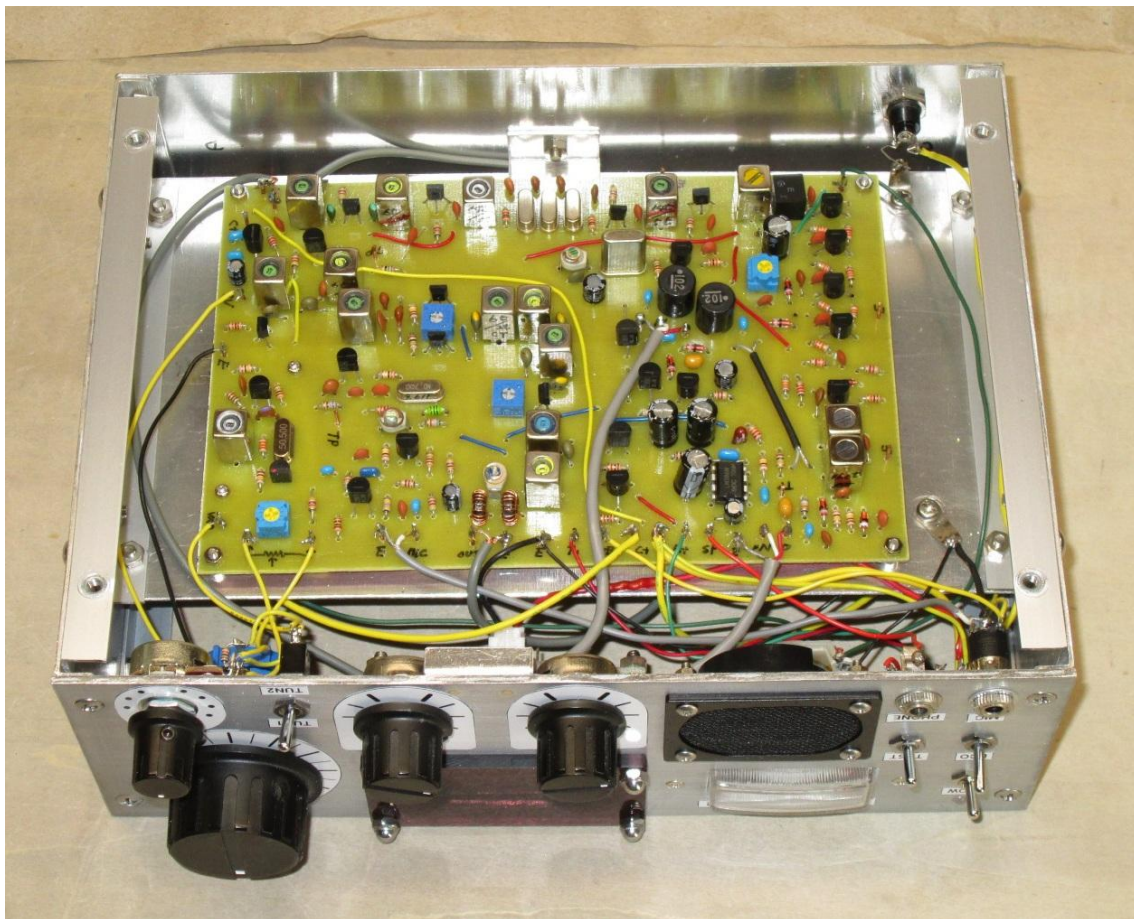


写真3 下面：FM ジェネレータ部（基板サイズ：150×100mm）

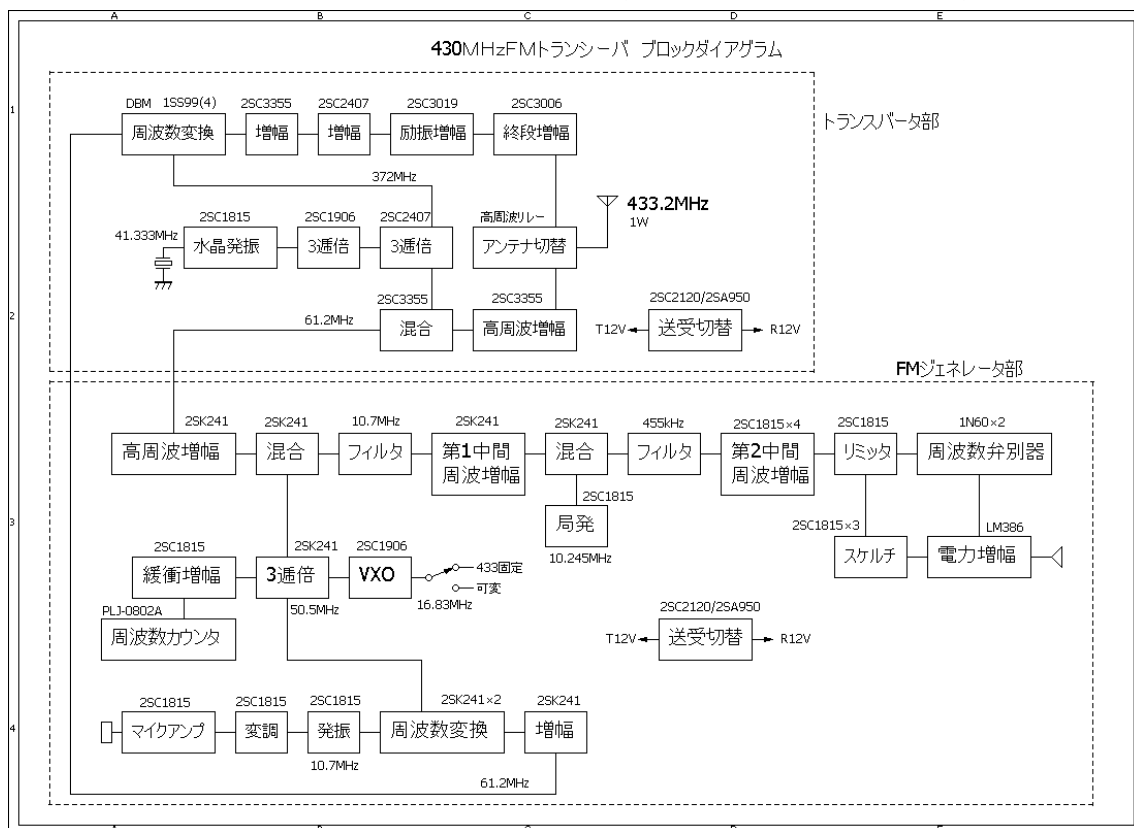


図1 ブロックダイアグラム

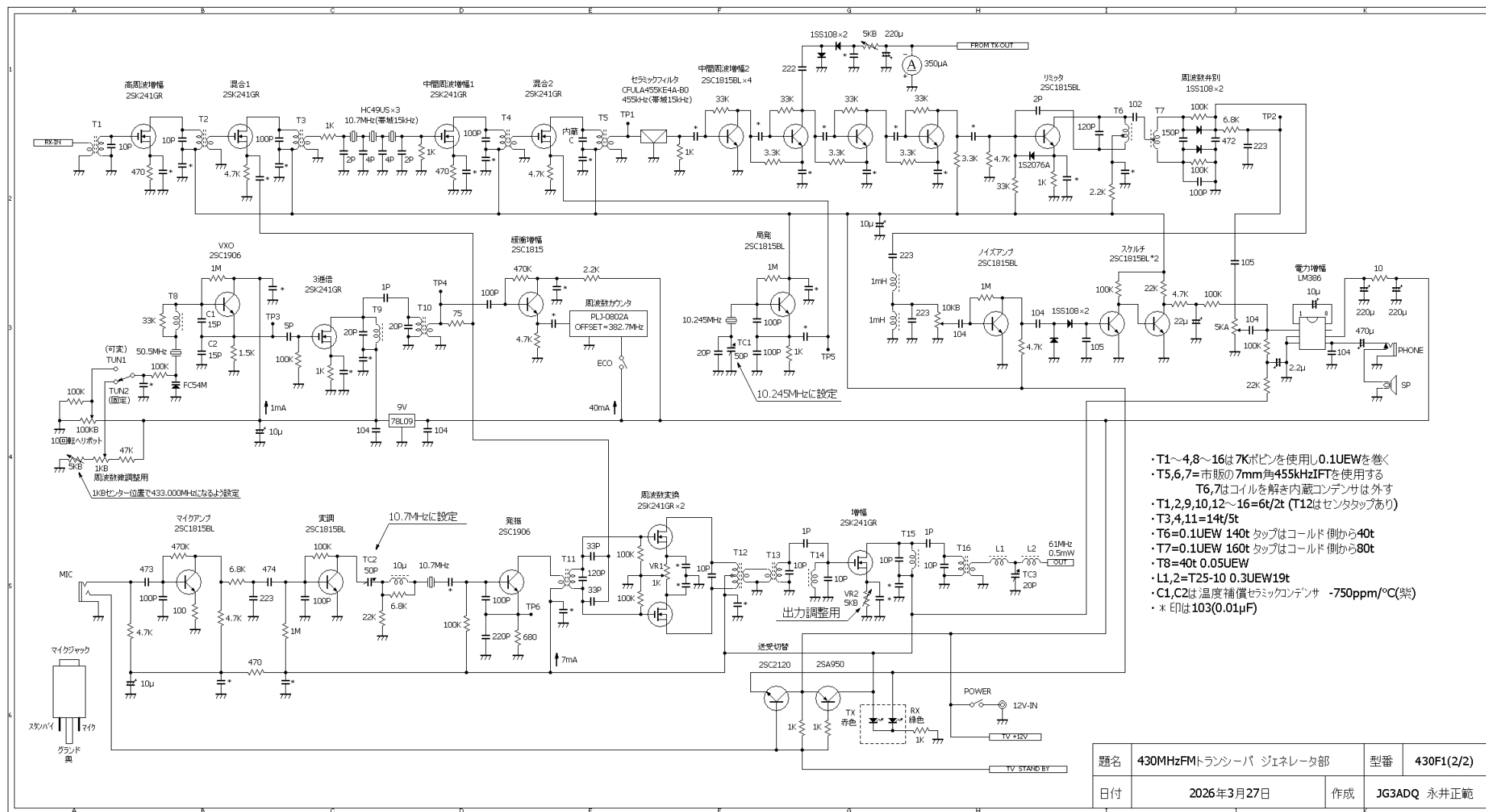


図3 FM ジェネレータ部回路図

詳しくはこちらで

1. 試作編 <https://jg3adq.a.la9.jp/430f1p.htm>
2. 製作編 <https://jg3adq.a.la9.jp/430f1.htm>

○プロローグ

梅雨前の5月13日から南国土佐でQRP旅をやってきました。

○その1 JCC3903 安芸市

阪神二軍キャンプ球場の海岸東屋で運用しています。アンテナは5mH 30mL loopを展開しています(写真1)。釣果は10MHz CWで7交信、北陸の某OT様所望のデジタルモードはIC-705のRTTYメモリーにメッセージを書き込み10/14/18/21/24MHzをサービスしました。



写真1 安芸市運用

○その2 JCC3901 高知市高知公園

高知城跡公園で5mH 30mL loopを展開し夕方宿に入るまでと最終日の午前中の2回運用しています。釣果は7MHz CWで9交信、10MHz CWで7交信、14MHz CWで14交信でした(写真2)。



写真2 高知公園運用

○その3 JCG39004E 中土佐町久礼(なかとさちょうくれ)

久礼の海岸に建つ津波避難タワー下で運用しています。5mH 30mL loop アンテナで7MHz CWで2交信でした(写真3)。



写真3 中土佐町久礼運用

○その4 DVは1交信

ホテル6階から高知430経由で各地のDVにつないでCQを出したものの結果は千葉430につないだ1交信のみです。どこのDVレピーターも昼夜を問わず閑古鳥状態で旅先からのDV交信は難しい状態です。

○エピソード

路面電車の終着、御免町駅(ごめんまちえき)で立ち寄った世界のオタクの聖地屋上にはEMEとおぼしき仰角ローテーター付12el×3水平八木の姿がありました(写真4)。これに気付いてしまうのが無線オタクのさがです。土佐の無線オタクはさすがと台風接近時は台座を残してスタコラサッサと脱藩避難してしまう高知駅前のハリボテ三体以上に感激したしだいです(写真5)。



写真4 12el×3 水平八木 (仰角ローテーター付)



写真 5 平時在藩／台風時撤去脱藩

【実験】 433MHz SAW(弾性表面波)フィルタ活用 CW 送信機 FM ワイヤレスマイク

#1368 7L1HBS 成島 礼司

1. 概要

SAW(弾性表面波)フィルタ SAW-F11 HDR433M が、4 個入 100 円で販売(aitendo)されていたので購入してみました(写真 1)。データシートは入手できませんでしたが、2-3 番ピンは金属ケース、1-4 番ピンは入出力のようです。フィルタ特性を nanoVNA で測定してみました。すると、これはフィルタというより発振子の特性ですね(写真 2)。

それならばもしかして、・・・433MHz 帯の CW 送信機や FM ワイヤレスマイクが通倍回路なしでいきなり製作できるのではないかと実験してみました。結果は、ビンゴ！ 通倍回路なしで周波数安定度抜群、超シンプルに製作できました。

こんなすばらしいデバイスがあったなんて全く知りませんでした！

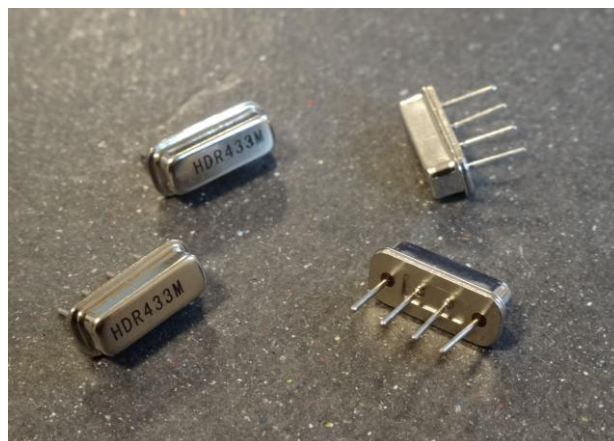


写真 1 SAW-F11 HDR433M



写真2 HDR433M フィルタの特性 (nanoVNA)

2. 製作実験

(1) 433.96MHz CW 1 石送信機(写真 3)

トランジスタは 2SC3355K(V_{CBO} :20V, I_C :100mA, f_T :6.5GHz)を使用(図 1)。電源電圧 6V~11V の変化で発振周波数は約 2kHz 変化する。6V でちょうど 433.96MHz ピッタリ。配線長によっても周波数が若干変化するので、これでも微調整はできる。なお本機は、このままアンテナを接続しての運用は法令上厳禁！ 空中線負荷は 680Ω 抵抗！ IC-705+ホイップアンテナで美しい CW トーンが受信できる。周波数安定度抜群！ チャピリなし！

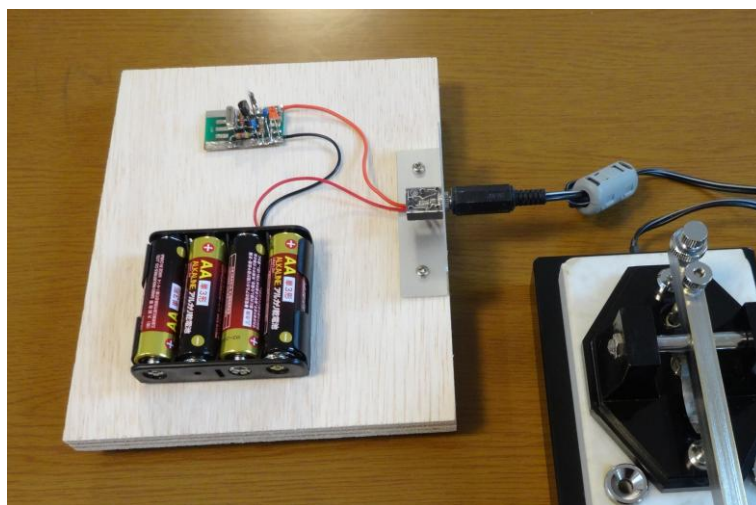


写真3 433.96MHz CW 1 石送信機

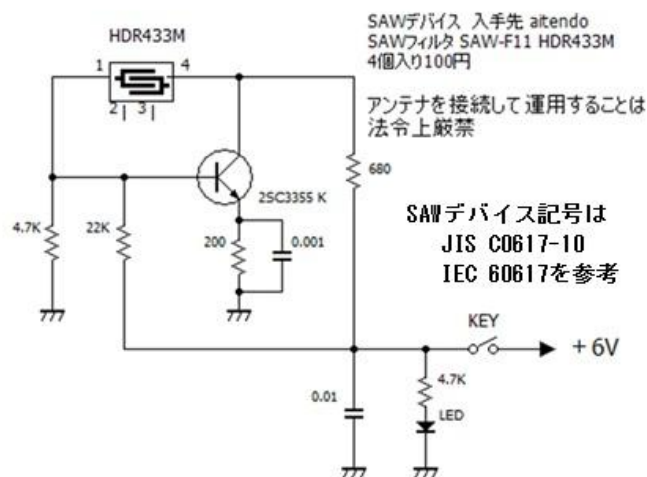


図1 433.96MHz CW 1石送信機回路図

(2) 433.96MHz FM 2石ワイヤレスマイク(写真4)

千葉秀明(JA7CRJ)氏のオリジナル FM 変調回路と ECM WM-61A 相当品の組み合わせでちょうど良い感じのデビエーション(NFM)になった(図2)。室内で IC-705+ホイップアンテナで明瞭に受信。周波数安定度抜群！ IDC、終段、LPF 回路などを追加すれば 433MHz FM QRP 送信機として保証認定を受けることが可能かもしれません。



写真4 433.96MHz FM ワイヤレスマイク

433.96MHz FM ワイヤレスマイク Ver20251025 7L1HBS

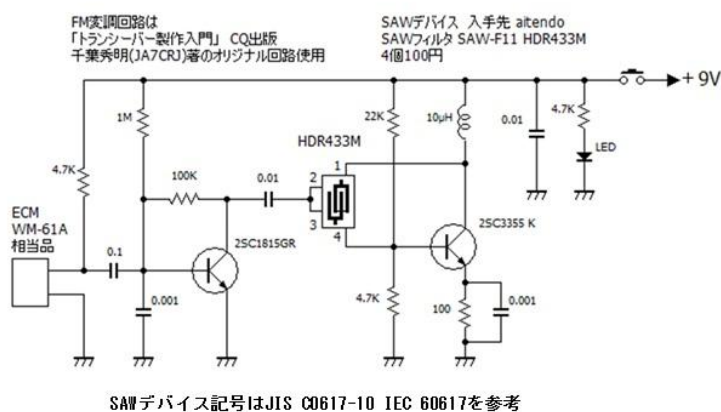


図2 433.96MHz FM 2石ワイヤレスマイク回路図

3. 参考回路

浅め変調なら AM 変調も可

433.96MHz AM ワイヤレスマイク Ver20251026 7L1HBS

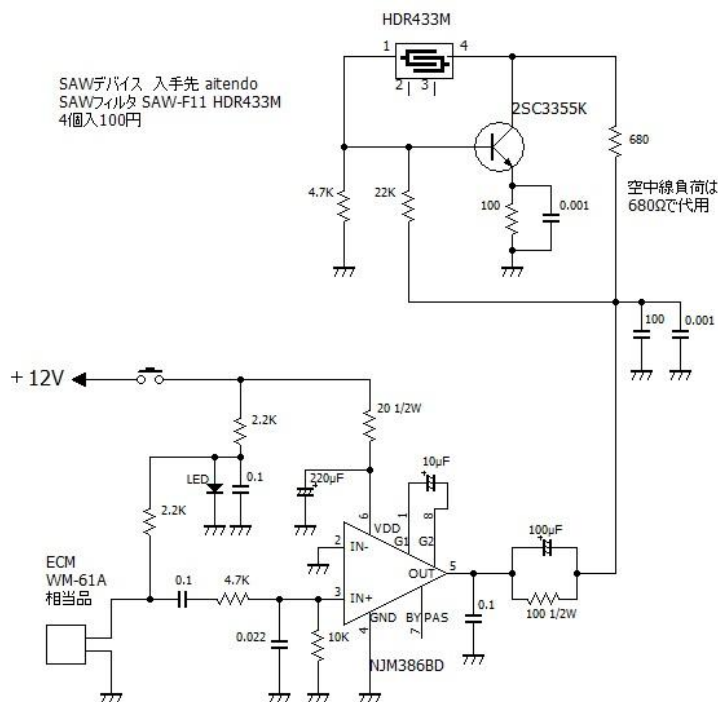


図3 (参考) 433.96MHz AM ワイヤレスマイク回路図

※図1～3は、フリーソフトウェア「水魚堂の回路図エディタ」で作図しました。

【運用】今年も参加！KANHAM コンテスト

#1323 JE3IFZ 上田 昌一

1. はじめに

2026年4月29日、昨年に引き続き KANHAM コンテストハンディ機部門に参加しました。

KANHAM コンテスト出場は今回で3回目です。一昨年に初参加で所属団体のクラブ員として活動する傍らで、個人でもハンディ機部門に合間を見て参加。昨年は団体が出場を希望しなかったので一人となり、ハンディ機部門に生駒山上から参加して1位こそ取れたものの参加者も1名という寂しい部門となりました。ハンディ機専門の部門としては日本で唯一となるコンテストだけに、今年はぜひ多くの人が参加して競りたいねと願っておりました。

2. 今年のコンテスト運用

今年の運用をどこにしようかなと考え、当初は同じ兵庫県内の摩耶山を考えましたが、あいにく曇り空で雨が降るかもという予報だったため、普段から行き慣れている大阪南港（高さ 252m）に変更しました。現地に到着すると山の稜線が雲で覆われて見えなくなっていたのでこちらで良かったです。

使用できるリグは 144MHz・430MHz・1200MHz FM のハンディ機（電源はバッテリーパックまたは乾電池ケースで一体に出来るもの、電池交換や大容量パックの使用は可能）に限られるため、昨年も活躍した YAESU FT-3D と、新たに 2 月の関西ハムシンポジウムにて買い増した ICOM ID-50 を選択（写真 1）。アンテナは規約によりリグ付属ホイップアンテナまたはそれに準ずるものということでそのまま付属アンテナを選びました。



写真 1 YAESU FT-3D（左）と ICOM ID-50（右）

3. 運用経過

12 時から 430MHz がスタート。開始から多くの局が CQ を出す中で、ひとつおき聞いて回ってバンドの様子を見ることとし、CQ を出している局と交信した後、少し時間をおいてこちらから CQ を出しました。現在の VU の主力は 430MHz と言わんばかりの混み具合でしたが、多くの局と交信できました。交信に慣れない局、関ハム記念局も参加し、大賑わいでした。

14 時になり 430MHz が終了して 1200MHz が始まりましたが、1200MHz のハンディリグを持っていないことから一旦休憩。紙ログで運用していたので近くの喫茶店でコンテストログの整理をしていました。いつもお世話になっている局、交信お久しぶりの局、初めての局、様々でした。

15 時から 144MHz が開始。昨年の 144MHz FM は 2 時間運用の 21 局交信で驚いていましたが、今年はそれ以上で CQ を出すと早々に応答がありやがてパイルアップ状態に。長年 2m で運用して SSB・FM 問わずここまで呼ばれたのは初めて、という状況になりました。

16 時前ぐらいから少しずつ CQ 出している局の応答にも回りましたが、昨年は FM で CQ を出している局がおらず寂しいなと思っていたところ、今年は FM でも CQ を出している局があり、複数局出場になるなど安心しました。一方で、思ったほど遠くの局との交信が出来なかったのがやや物足りなかったです。

17 時となりコンテストは終了、ついでに持ってきた FT-817ND を使って 144MHz FT8 でも 30 分ほど運用しました。

最終的に各 2 時間で 430MHz FM 52 局・144MHz FM 42 局と交信、144MHz FM に至っては 15 時台だけでも 30 局交信と、自分でも驚く成果となりました。最長距離が 430MHz は滋賀県野洲市の関ハム記念局（約 75km）、144MHz が徳島県名東郡佐那河内村大河原高原（約 120km）と、QRP CLUB のメンバーとしてはもう少し距離が欲しかったですが、西日本は悪天候で高所が敬遠されたこともあり今回はこのぐらいが限界だったかなと思います。

4. コンテスト結果と表彰

6 月に入り結果発表となり、昨年に続き 1 位となりました。今年は部門の参加局数が 11 局で 1 エリアからも 2 局参加。コンテスト全体でも参加者が 70 局増ということで、賑わう大会となりました。

当初入賞者は賞状を郵送とされていましたが、事前に電子賞状が送られ、今年も関ハム会場にて表彰式が行われました。

昨年は壇上表彰が受けられませんでした。今年では会場の壇上にて表彰を受けることが出来ました。コンテスト上位により壇上で表彰を受けるのは初めてということもあり、少し緊張しました。賞状（図 1）とともに副賞（32GB の USB メモリ、写真 2）を頂きました。



図 1 （右） KANHAM コンテスト賞状
写真 2（左） 副賞（32GB の USB メモリ）

5. おわりに

私自身はハンディ機やポータブル機での電話運用が長かったことから、CW も打てず、アンテナも小さなものを作る程度しかできません。それでもハンディ機や FT8 を通じて QRP 運用の楽しさを伝えることを目標に移動運用を行っています。最近では大阪・関西万博での体験運用を経てアマチュア無線を始めた人も出てきており、日々の交信の中でも無線を始めてまだそれほど年数が経っていないという方々とも話をする機会が増えています。

少しでもアマチュア無線の裾野・QRP 運用の輪が広がってくれればと願うばかりです。

（編集部注）表彰の様子を本会報の p.19～20 に掲載しています。

第30回関西アマチュア無線フェスティバル (KANHAM2026) が7月18～19日に大阪府池田市の池田市民文化会館 (写真1)、豊島野公園等で開催されました。写真2は開会式の様子です。2日間お天気に恵まれましたが、会場内も含めて暑かったですね。

主催者発表によると2日間の来場者数は9,000名で、前年の8,000名を上回りました。



写真1 (左) 主な会場である池田市民文化会館 (開会式時)

写真2 (右) 開会式の様子

1. 当クラブブース

当クラブでは3エリアメンバー (JS1BVK 山田さん、JR3TGS 稲田さん、JG3ADQ 永井さん、JA3JJE 南さん、JN3DMJ 松本：順不同) 中心にブースを出展しました。

写真3は7月18日 (土) 16:45頃、写真4は7月19日 (日) 14:30頃の集合写真です。写真5は7月18日 (土) 開場直後の混雑したクラブブース風景です。



写真3 7月18日 (土) 16:45頃の集合写真

(前列左から JE1UCI 富川さん、JG3ADQ 永井さん、JS1BVK 山田さん、JA3JJE 南さん、JL3TOG 岩田さん)

(後列左から JR4EDG 有田さん、7L4WVU 原口さん、JA6IRK 岩永さん、JE1ECF 斎藤さん、JI3BSB 山本さん、JR3TGS 稲田さん、JA3MJR 梶井さん、JS2HFC 高橋さん、JN3DMJ 松本)



写真4 7月19日(日)14:30頃の集合写真
(後列右がJG2VSF 大鐘さん 他の方は写真3を参照願います)



写真5 7月18日(土)開場直後の混雑したクラブブース風景

2. 当クラブブースでの主な展示品

以下、当クラブブースでの主な展示品(自作品)を順不同で紹介します。

JG3ADQ 永井さんは430MHz FM トランシーバー(写真6,7)、430MHz 移動用3エレ八木アンテナ(写真8)を展示されました。430MHz FM トランシーバーの詳細は本会報 p.1~の記事をご覧ください。



写真6,7 JG3ADQ 永井さんの430MHz FM トランシーバー

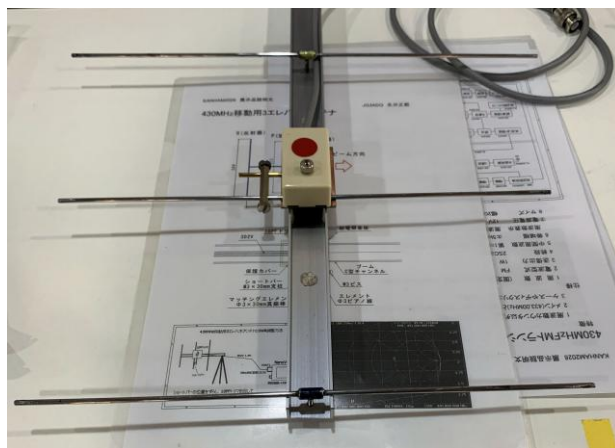


写真8 JG3ADQ 永井さんの 430MHz 移動用 3 エレ八木アンテナ

JE1UCI 富川さんは 50MHz SSB ワンボードトランシーバを展示されました (写真 9)。



写真 9 JE1UCI 富川さんの 50MHz SSB ワンボードトランシーバ

JR3TGS 稲田さんは、ご自身で運営されている TGeS LAB (<https://tges-lab.com/>) から発売されているキットの製作例を展示されました。写真 10 の中央は 7MHz CW QRP 1 ワット トランシーバー・キットの製作例です。キットはケース無しで、周波数表示の液晶キットはオプションです。写真 10 の左は 4 チャンネル・メモリーキーヤー・キットの製作例で、メモリー書込み中に符号を間違った場合、間違った符号のところまでさかのぼって訂正できる機能が付いていることが特徴です。写真 10 の右は 7MHz CW 20Watts ブースターキットの製作例です。



写真 10 JR3TGS 稲田さんが運営されている TGeS LAB のキット製作例

中央：7MHz CW QRP 1 ワット トランシーバー

左：4 チャンネル・メモリーキーヤー

右：7MHz CW 20Watts ブースター

JS1BVK 山田さんは 7MHz マグネチックループアンテナを展示されました (写真 12)。



写真 12 JS1BVK 山田さんの 7MHz マグネチックループアンテナ

なお、KANHAM に間に合わせるように「クラブ紹介パンフレット」を作成し、ブース来訪者などに配布しました。このパンフレットは東京のハムフェア、東海ハムの祭典でも配布予定です。

3. 当クラブブース以外の会場風景

当クラブ会員でもある JI3BSB 山本さんは BSB 研究所としてブースを出展されていました。このブースでは 50MHz AM トランシーバー主要部品セット（上級者向け）、50MHz PSN SSB トランシーバー主要部品セット（超上級者向け）、1石レフレックスラジオキット、3石+1IC スーパーラジオキット、50MHz 2 エレ位相給電アンテナが販売されていました（写真 13,14）。



写真 13,14 JI3BSB 山本さんが出展されていた BSB 研究所のブース

開場前にアマチュアキットクリエイターズ（AKC）のブースに訪問し、写真 15 を撮らせてもらいました（原口さん、小野さん、岩永さんは当クラブ会員でもあります）。



写真 15 アマチュアキットクリエイターズ（AKC）のブース

（左から 7L4WVU 原口さん、JE3QDZ 吉村さん、JL1VNQ 小野さん、JA6IRK 岩永さん）

当クラブ会員でもある JE3IFZ 上田さんは、「第 16 回（2026 年）KANHAM コンテスト」において、ハンディ機による QRP 運用で参加され、「シングル・オペレーター（電信電話）ハンディ機部門」で第 1 位を獲得されました。KANHAM 初日には会場で KANHAM コンテスト表彰式が行われており、上田さんもそこで表彰を受けられました（写真 16）。上田さんの KANHAM コンテスト参加の詳細は本会報 p.12～の記事をご覧ください。



写真 16 KANHAM コンテスト表彰式で表彰を受けられる JE3IFZ 上田さん

写真 17,18 は会場内（1 階の一部）の風景、写真 19 は企業出展会場（2 階の一部）の風景、写真 20 は屋外出展の風景（3 階から撮影）です。



写真 17,18 会場内（1 階の一部）の風景



写真 19（左） 企業出展会場（2 階の一部）の風景

写真 20（右） 屋外出展の風景（3 階から撮影）

以上は KANHAM2026 のほんの一部です。多くのイベントが行われました。

4. 関ハム 2026 QRP クラブ混信会（懇親会）

7月18日（土）の夕方、懇親会を開催しました。お店は「白木屋（石橋阪大前東口駅前店）」で、13名が参加し、盛り上がりました（写真21）。



写真 21 関ハム 2026 QRP クラブ混信会（懇親会）

【レポート】ネット QRP 懇親会報告

#650 JN3DMJ 松本 貢一

1. はじめに

ネット QRP 懇親会を6月14日（日）、7月11日（土）に開催しましたので報告します。

原則として毎月第2土曜日（ハムフェア、全国集会の月は開催しない予定。都合により変更あり）の15～18時としており、懇親会の内容は「発表」、「情報提供」、「無線機の自作等の相談」等としております。土曜日のご都合が良くない方がいらっしゃるようなので日曜日も混ぜようと思います。製作の話題が多いですが、運用の話題も歓迎いたします。

2. 6月度の報告

6月14日（日）15時～17:30に開催し、9名が参加しました（写真1）。発表、情報提供案件を表1に示します。

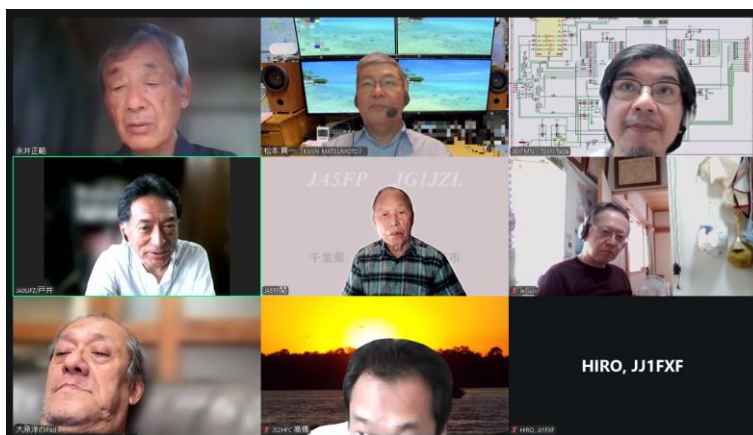


写真 1 6月度のある時刻における参加者

表1 6 月度の発表、情報提供案件（発表順）

JG3ADQ 永井さん	430MHz 移動用 3 エレ八木の製作
JA0UFZ 戸井さん	KiCAD で基板設計 ADC/DAC ボード進捗ほか
JS2HFC 高橋さん	タカチのチルトスタンドを使用した傾斜用スタンド

3. 7 月度の報告

7 月 11 日（土）15～18 時に開催し、10 名が参加しました（写真 2）。発表、情報提供案件を表 2 に示します。



写真 2 7 月度のある時刻における参加者

表2 7 月度の発表、情報提供案件（発表順）

JG3ADQ 永井さん	144/430MHz デュプレクサの製作
JG1CCL 内田さん	PRT-028 Line Follower Robot の製作
JA0UFZ 戸井さん	KiCAD で基板設計の続き、事例紹介
JS2HFC 高橋さん	貴田電子の KEM-RX7-DX の製作
7L4WVU 原口さん	3.5MHz ARDF 受信機製作 ARDF 大会参加
JA5FP 間さん	LoRa APRS について www.catv296.ne.jp/~ja5fp/lora-aprs.pdf

4. おわりに

懇親会の申し込み方法ですが、日が近づきましたら会員のみなさま宛にメールで案内を出しますので、メールでお申し込みください。追って Zoom ミーティングに招待します。

懇親会参加の敷居を低くしたいです。近年入会会員も含め、全国の会員のみなさまのご参加をお待ちしております。無理に振ったりしないなど、安心して参加いただけるような運営に努めたいと思います。

【次回以後の予定】（変わることがあります）

9 月 19 日（土）

10 月 12 日（祝）

【新入会員紹介】

※会員限定※

【会員の近況報告】

※会員限定※

【お知らせ】2026 年度役員会（夏）議事録

※会員限定※

【お知らせ】11 月 3 日に JARL QRP CLUB 2026 年 QRP コンテストを開催します

#123 JG3DHN 上田 雅貴

#767 JA9RRH 中 社 進

2026 年 11 月 3 日(火)13:00～21:00(JST) 文化の日に「JARL QRP CLUB 2026 年 QRP コンテスト」を開催いたします。

詳細については、コンテスト規約発表後（9 月の予定）、クラブ Website のコンテストのページを参照します。

<https://www2.jaqrp.org/contests/>

【お知らせ】アワード発行のお知らせ

#343 JH3VAA 野村 衛

申請がありました以下のアワードについて精査しましたところ、アワード規定に合致しておりましたので発行いたしました。

JH4TXW 土居 和久さん	QRP アワード R 賞 (10MHz CW)
JE6KGB 前田 志朗さん	QRP アワード Q 賞 (21MHz SSB 同一スクエア)

() 内は特記です。

(アワード担当)

※一部会員限定※

◆ハムフェア 2026 出展

ハムフェア 2026（8月29日～30日）の開催が近づいてきました。会場は有明 GYM-EX です（写真1,2）。当クラブのブース番号は「E22」で、休憩スペースの近くに配置されています。当クラブブースは会員同士の貴重な交流の場でもありますので、行かれる方は、お立ち寄りいただき、のんびりしてってください。当クラブブースなどでみなさまとお会いできることを楽しみにしています。

出展ブース情報（JARL）：https://hamfair.jp/48th_booth_info_e



写真1（左） 有明 GYM-EX（2025年8月23日撮影）

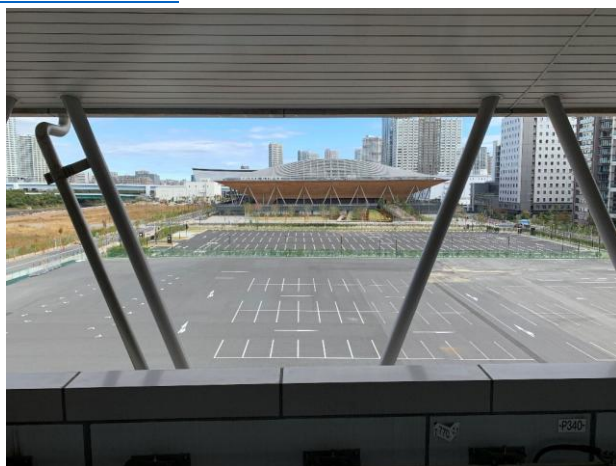


写真2（右） ゆりかもめ「有明テニスの森」駅から望む（2023年11月25日撮影）

◆第58回東海ハムの祭典出展

当クラブは9月27日（日）に名古屋市の岡谷鋼機名古屋公会堂で開催される「第58回東海ハムの祭典」に出展します。

「第58回東海ハムの祭典」公式サイト：<https://www.tokai-jarl.jp/saiten/index.html>



写真3 「東海ハムの祭典」会場の岡谷鋼機名古屋公会堂（前回：2025年10月26日撮影）

◆当クラブに関する連絡先のメールアドレスは以下のとおりです。

qtc2@jaqr.net	当クラブの活動全般についてのご質問、ご要望、ご意見。 このメールは役員と監査役に届きます。 メールには役員から必ずお返事を出します。
contest2@jaqr.net	コンテストについての問い合わせ先はコンテスト担当へ。 (ログの提出先メールアドレスは異なりますのでご注意ください。)
kaiin- info2@jaqr.net	会員情報（メールアドレス等）の変更はこちらへ。 事務局長などに届きます。（ただし、ご意見等がある場合や、退会連絡は qtc2@jaqr.net をお願いします。）
award2@jaqr.net	アワード関連についての問い合わせ先はアワード担当へ。
qrnews2@jaqr.net	会報への投稿などについては編集部へ。

【編集後記】

#650 JN3DMJ 松本 貢一

令和8年熊本地震により被災された方々、影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。
みなさまが一日も早く平常の生活に戻れることを願うとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

7L1HBS 成島さん、JE3IFZ 上田さん、一般記事へのFBな初投稿ありがとうございます。

関西アマチュア無線フェスティバル（KANHAM）（7月18～19日）では会員のみなさま、来訪者のみなさまにお会いすることができ、良かったと思っています。

ハムフェア2026、第58回東海ハムの祭典でお会いできることを楽しみにしております。

次回会報はできれば9月に発行したいと考えておりますので、会員のみなさま投稿をお待ちしております（締切：9月12日）。運用記事も歓迎します。「会員の近況報告」は随時受け付けております。気軽に書いていただければと思います。写真の掲載も歓迎します（写真とタイトルだけでもOK）。

至らない点もあるかと存じますが、引き続きよろしくお願いいたします。

JARL QRP CLUB 会報 vol.69-02-Public
公開版

発行 2026年8月19日
発行人 JE1UCI 富川 寿夫
編集人 JN3DMJ 松本 貢一
発行所 JARL QRP CLUB
電子メール qrnews2@jaqr.net

Copyright (C) 2026 by the JARL QRP CLUB